

# 成人教育者の役割についての一案

宮 協 陽 三

## 内容目次

はじめに

### 一 成人教育者の役割

(一) 指導者としての役割

(二) 協力者としての役割

(三) 同好者としての役割

### 二 自己管理学習能力の意義

(一) 技能説

(二) 教育方法または教育過程説

(三) 態度説

### 三 自己管理学習能力育成のための範型

(一) 範型

(二) 範型の考察

おわりに

## はじめに

アメリカでは一九六五年当時において、すでに約九百万人の人びとが独立学習を行っている。独立学習または自己学習 (self-instruction) は成人教育領域ではこれまであまり研究対象として取り上げられることはなかった。今日、成人学習や継続教育が最も進んでいるといわれるアメリカ合衆国においてすら、一九七〇年代から八〇年代にかけて、ようやくこの方面での研究がぼつぼつと始まったばかりなのである。しかし今後のわが国において生涯学習社会への移行を図っていくにあたっては、成人学習における自己管理学習 (self-directed learning) または自己主導学習 (self-initiated learning) 能力の育成はますます重要になってくると考えられるのである。

アメリカでは一八歳以上の人びとの約八〇パーセントは自分自身を継続学習者 (continuing learner) として自覚しているといっている。

とである。ところが、これらの人びとのうちの僅か二・九パーセントの人びとだけが、正規の成人教育事業に参加しているにすぎないのである。アメリカの約九〇パーセントの成人は、一年につきいずれか一つの学習活動を行っている。標準的な成人学習者の場合で、一年につき平均一〇〇時間の学習活動を行っているというのである。

#### (1.4)

成人における自己主導学習の普及にともなって、一九八〇年代以降では成人の自己主導学習に対して、成人教育者 (adult educator) はどのような役割を果していくべきかが問われるようになってきている。今日の急激な情報化社会の発達にともなって、成人教育者は成人の自己管理学習能力の育成と強化のために、もっと積極的な役割を遂行していかなければならないようになってきているのである。

しかし成人学習者の中には、学習活動の速成的効果を求めるために、これまでの伝統的な知識・技術の伝達手段である講義とか、老練な講師による指導技術に依存した教育方法とか、学習者側からみると受身的な学習方法を好む傾向がみられたのである。

そのために、自己管理的、自己主導的な学習能力の育成のためですら、他者の指導者の主導権に頼る学習方法に依存せざるをえないという矛盾が出てきたのである。学校教育段階からすでに自己主導でない学習活動に長い年月にわたって馴染んできた成人学習者に対して、自己主導学習能力を育成していくためには、時には指示的方法 (directive approach) を用いることも必要であるということ

が、広く認識されるようになってきたのである。

したがって、この小論では、成人学習者の自己管理学習能力を育成するにあたって、成人教育者はどのような役割を遂行していかなければならないかについて考察しようとするものである。

#### 一 成人教育者の役割

成人教育者は、(一)指導者 (leader)、(二)協力者 (collaborator)、(三)同好者 (colleague) という三つの役割を遂行するのである。(1.4)

#### (一)指導者としての役割

これは、他の二つの役割とくらべると、最も指示的 (directive) な役割である。この役割は、教育者の役割の中でも最も代表的な役割である文化財の伝達者、すなわち教授者という役割から生じてくるのである。具体的には学校教育の教室の中での教科授業担当教師 (instructor)、すなわち授業監督者という姿で示されている。したがって指導者としては、成人学習者の協力を得ながら、または成人学習者が協力してくれなくても、成人学習者が自己管理学習能力または自己主導学習能力を習得できるように意図的に働きかけていくことになるのである。

しかし成人教育者が指導者としての役割しか遂行していない場合には、成人学習者側に自己管理状態 (self-directedness) を生ぜしめることは、ほとんど期待することができなくなるのである。それ

ゆえ成人教育者が成人学習者に自己管理学習能力を育成するにあたっては、たんに指導者としての役割にとどまるだけではなく、積極的に他の二つの役割に結びついたり、また成人学習者が自己管理学習を遂行していきたくなるように援助したりするように配慮することが大切なのである。

## (二) 協力者としての役割

これは、成人教育者が、成人学習者が自分自身の学習目標を達成していくことを援助するために、学習者の側に坐って助言したり、協力したりすることである。それゆえ、これは指示的役割というよりも、むしろ促進的役割 (facilitative role) であるといえるのである。

したがって学習の場での管理は、成人教育者と成人学習者の間で分担されることになるのである。成人教育者と成人学習者の間での、このような協力関係は、「学習案内」(coaching) ということもあるのである。学習案内とは登山にあたって、登山案内人と登山者が同じ山頂をまぎして、お互いに協力しあつて山道を同行者として登っていくような状況を示しているのである。

そのような場合には、成人教育者の学習案内は、成人学習者の要求の程度に応じて、その熟練の程度 (expertise) がさまざまな選択肢によって提供されることになるのである。この協力者または案内者としての役割は、成人学習者に対して自己管理学習能力を育成していく場合には、とくに重視されるのである。

ただし成人教育者が成人学習者に対して協力者または案内者としての役割を遂行できるようになるためには、二つの条件が必要である。

その一は、成人学習者自身が既に習得した知識または技能を新しい事態や状況に応用しようとしている段階に到達しているということである。

その二は、成人学習者が既習の知識や技能を応用したり実行するにあたって、協力者または案内者の適時の援助や助言、また即時の点検 (feedback) を必要としているということである。

## (三) 同好者としての役割

これは成人学習者とまったく対等の同好者としての役割である。

この場合には、成人教育者は共同学習者 (co-learner) という地位を占めるのである。それゆえ、成人教育者が自分自身で学習目標を設定し、学習目標を達成するための学習計画を立案して、成人学習者にも学習計画の実行者として参加し分担してもらつて、学習過程を遂行していく場合であっても、実質的にはその成人学習者を教育していることになるというのである。

したがって同好者としての役割は、成人学習者に対して自己管理を強制することもないし、また自己主導を促進したりすることもなく、たんに自己管理を模範にしようとしているだけなのである。同好者としての役割を遂行していく場合には、時には指導者の役割をしたり、時には協力者または案内人の役割をしたりすることもある。

実際の成人教育の現場においては、成人教育者は、成人学習者との同じ教育経験のなかで、時には指導者、時には協力者、時には同好者という役割を遂行したり、時には三つのうちの二つの役割を遂行したり、時には三つの役割を同時に遂行したりするということになるのである。

## 二 自己管理学習能力の意義

成人学習に対して自己管理学習能力を育成するにあたって、成人教育者の役割が、時には指導者、時には協力者、時には同好者、また時には指導者と協力者を兼ねるとか、同じ教育経験の現場において指導者と協力者と同好者という三者の顔を同時に使い分けることも必要になることがあるということは、そもそも自己管理学習とは何かということが必ずしも明確になっていないからであると考えられる。

自己管理学習能力とは何かについては、次のような三種類の定義がある。

その一は、それは成人学習者が完全に習得していなければならない技能 (skill) であるということである。

その二は、それは成人学習者の学習方法または教育過程 (instructional mode or process) であるということである。

その三は、自分自身ならびに社会に対して積極的に働きかけようとする哲学的な自発的な態度 (philosophical and motivational stance) であるということである。

## (一) 技能説

ノウルズ (Knowles, M. S.) によれば、自己管理学習能力を育成していくためには、成人教育者は、成人学習者が何を学習しているのか、またどんな資料を利用することができるのか、また学習の成果をどのように評価することができるのかについて、つねに成人学習者を書くことを要求しなければならないのである。

成人教育者と成人学習者が協力しあつて、学習の目標や内容や方法や評価を自発的に意思決定し実行していくことができる技能が、成人教育における自己管理 (Self-direction) の本質的要素になるのである。

ブルナー (Bruner, J.) によれば、自己管理学習能力とは効果的な意思決定技能 (decision-making skills) である。成人教育者は、成人学習者が自己管理を遂行できるように援助していくためには、かれらに対して、学習可能な条件が整備されているかに注意させたり、また学習可能な条件を適切に選択できるようにするための手順と感受性を習得させたりしておくことが必要なのである。

チェレン (Cheren, M.) によれば、成人教育者の役割は、成人学習者がさまざまな自己管理技能を練習できるように援助することであり、成人学習者が自己管理学習者としての自覚 (self-image) をたえず強固に持ち続けさせていくことであるというのである。

ところで自己管理学習者は必ずしも学校教育の場におけるような形式的な学習技能の練達者である必要はないのである。高校卒業以下の学歴の自己管理学習者の場合であっても、多くの人びとは学校

での形式的な教育過程を経験していなくても、さまざまな現実の生活状況に適切に反応していくことによって、自分自身の学習過程を発見学習法、つまり自ら進んで調査したり、経験したりする学習法によって遂行してきたのである。

ただし、そのような自己教育的学習者であっても、自己管理学習技能についての多くの知識の活用によって、学習上の多大の便宜を受けられるようになることは言うまでもないことである。

## (二)教育方法または教育過程説

ブルックフィールド (Brookfield, S. D.) によれば、成人教育においては成人教育者と成人学習者が相互に協力しあうようなやり方でなければならぬというのである。成人学習者の自己管理学習能力を育成していくためには、成人教育者と成人学習者との間に継続的な発問と回答のやり取りや、学習内容の取捨選択や、学習成果の評価などが行われなければならないのである。

成人学習者、成人教育事務担当者、成人教育者が自己管理学習の振興を図るにあたっては、(一)これら三者の協力による活力のある学習活動を展開していくために、自主的な学習集団を形成することと並んで、(二)成人学習者が自己の尊厳を強化したり、また学習の成果を確認したりするためには、成人学習者は信頼できる成人教育者からの援助や激励を必要とするのである。

そのような教育過程においては、成人教育者は専門家や審判者としてよりも、むしろ資料提供者 (resource provider) として活動

する共同学習者 (co-learner) の役割を遂行することになるのである。

ニューマン (Newman) は自己管理学習能力を思考と行動を同時にともなうような学習過程としてみている。成人教育者と成人学習者、また成人学習者同士の間、相互に質問しあったり、話し合いをしたり、学習主題を話し合って選定したり、各人が自分自身の結論を導き出していけるように積極的にかかわりあっていくことが必要であるというのである。

## (三)態度説

ブルックフィールド (Brookfield, S. D.) とメジロ (Mezirow, J.) によれば、自己管理学習能力とは哲学的な自発的な態度であるというのである。自己管理学習能力は成人の自由な意思と、成人が個人としての行動の変容を行いたいという意思にかかわっているというのである。

そのような場合には、成人教育者は自己管理学習を促進していくために、世界を解釈するための選択可能なやり方を提示したり、また成人学習者に対して、かれ自身の価値あるものや信条や行動のあり方や、別格の神聖なものとしている先有観念についても、批判的に分析したり、変更可能なやり方を考察したりすることができるよう援助していかなければならないのである。

ただし自己管理それ自体と、ここで自己管理学習能力と呼ばれているような意識の内面的変容とは区別しておくことが必要である。

メジロ (Mezirow, J.) は成人学習者が自己管理学習によってその行動様式を変容させていくことは、現実の社会の変化と改善をもたらすことになるかとみている。そのような社会の進歩や改善につながるような、責任感のある自己管理学習を進めて行くにあたっては、成人学習者は既成の社会制度の改善に貢献できるような個人的な、また集団的な活動に従事することが必要であるというのである。

そうであるとしても、自由な民主主義社会では、成人学習者は集団行動に強制的に指導されたり組織化されたりするのではなくて、成人学習者自身が直接に経験している文化的矛盾を適確に認識することができるよう援助されることが必要なのである。

そのような意味での自己管理学習とは、成人学習者を外部からの強制的な管理から解放するために援助することであり、またそのために成人学習者の職業生活や政治生活や娯楽生活を再編成することができるよう案内していくことなのである。

### 三 自己管理学習育成のための範型

#### (一) 範型

シャッテンバーグ (Schuttenberg, E. M.) とトレス (Tracy, S. J.) のよる自己管理学習能力を育成するための範型は、「第1表」に示す通りである。

この範型は、成人教育者に求められる役割と、成人学習者が既に到達した発達段階から、もう一つ高い段階の自己管理学習能力へ育成していくための学習方法を選択する場合に指針とし役立たせるた

〔第1表〕自己管理学習の育成方法

成人学習者 成人教育者		自己管理学習能力 (変容形態)		
		技 能 (行動)	過 程 (相互作用)	哲 学 (価値)
成人教育者の役割 (教育過程)	指 導 者 (指示)	1		
	協 力 者 (助言)		2	
	同 好 者 (示範)			3

めに作成されたのである。

〔第1表〕中の横軸は自己管理学習における成人学習者の技能、学習過程、哲学的な自発的な態度という三つの能力と、それに対応する三つの変容形態を示している。

〔第1表〕中の1は、自己管理学習能力が一組の技能であることを示している。ここでの変容形態は行動である。例えば成人学習者は成人教育者に対して学習契約書を正確に書くという技能を発達させておくことが必要なのである。

〔第1表〕中の2は、自己管理学習能力が学習過程または授業過程においても、またそれに対応する変容形態においても相互作用で

あるということを示している。例えば成人学習者は同好者と一緒に共同学習者として効果的に学習活動を行うことを習得していなければならぬのである。

〔第1表〕中の3は、自己管理学習能力が哲学的な自発的な態度であるということを示している。ここでの変容形態は成人学習者の価値観である。例えば成人学習者は自分自身の幸福実現のために自発的に学習を進めて行ったり、また生活状況や社会の進歩と改善のために自発的に主導権を取って学習を進めて行ったりすることが価値あることであると自覚するようになるのである。

〔第1表〕中の縦軸は成人教育者の指導者、協力者、同好者という三つの役割と、それに対応する教育過程または学習過程における指示、助言、示範を示している。

したがって〔第1表〕自己管理学習の育成方法は、(一)成人学習者における自己管理学習能力の三種類とそれに対応した変容形態、また(二)成人教育者における役割の三種類とそれに対応した教育過程のそれぞれの相互作用から産み出されてくる九種類の育成方法を示しているのである。

## (二) 範型の考察

〔第1表〕は自己管理学習が行われる場合の九種類の効果的な育成方法が開発される可能性を示しているが、しかしその全部が実行できるというわけではない。

成人学習者が学習契約書に署名するとか、学習目標を設定し、そ

の目標を実現するために計画を立案し、立案した計画を実行し、実行した結果を評価するなどの行動の変容をもたらすためには、行動を促進する技能が最も適切である。

成人学習者の行動の変容を生じさせるためには、何をやりたいのかという学習要求を把握し、その要求を実現した場合の結果を予想したり、また予想される結果に到達するまでの途中の経過において適切な支援を提供したりすることなどが必要である。

それゆえ成人教育者は、成人学習者が自己管理学習にかかわる技能を発達させていくのを援助するためには、指導者または監督者(director)としての役割を遂行しなければならない場合があるのである。

しかし成人学習者において自己管理学習能力の特質とされる新しい学習過程または相互作用過程を発達させていくことを援助していく場合には指示的方法(direct approaches)は適切ではないのである。その場合には成人教育者に対しては協力者としての役割を遂行することが求められるのである。その場合の成人教育者は、成人学習者と一緒に思想や意思決定を分担しあったり、また教育過程における話しあいや創造的思考を促したりする発想法の活用によって協力しあったりすることができるように案内するのである。

成人教育者は、成人学習者が哲学的な自発的な態度を修正するよう奨励したり、また自分自身ならびにその生活環境を変化させるために、既習の学習方法のうちのいずれの方法を採択するかという価値観の修正を促進したりするというような場合には、指示や監督

というやり方よりも示範のやり方が効果的である傾向がみられる。それゆえ成人教育者は、成人学習者の価値観を修正させたり、また新しい責任感にもとづく行動を遂行させたりする場合には、成人教育者自身による言行一致の実践によって模範を示すことが必要となるのである。

要約すれば、成人教育者側での、(一)指導者としての役割は成人学習者の自己管理学習能力のうちの行動力を変容させるために、また(二)協力者としての役割は成人学習者の自己管理学習能力のうちの相互作用を変容させるために、また(三)同好者としての役割は成人学習者の自己管理学習能力のうちの価値観を変容させるために、それぞれ最もふさわしい役割であるということができるのである。そのうえ、これらの三つの役割は、それぞれ独立分離したままではなくて、連続した系統にもとづいて有機的に結びつきながら、効果的に遂行されなければならないのである。

他方また成人学習者側では、相互に協力しあう学習過程から学習成果を得るようになる以前に、自己管理学習にかかわる基礎的技能を習得しておくことが必要なのである。また成人学習者は哲学的な自発的な態度を変容するようになる以前に、相互に協力しあうような学習過程がある程度までは経験しておくことが必要なのである。

それゆえ成人学習者に対して自己管理学習能力を育成するにあたっては、成人学習者の発達段階がいずれの段階にあるとしても、その時点でどの段階から学習活動を開始させることと、そのうえで自己管理学習能力の育成方法の範型に照らして、自己管理学習能力の連続

した系統的な学習過程を実践させていくように配慮することが大切である。

## おわりに

(一)成人教育者には、指導者と協力者と同好者という三つの役割があり、成人学習者の自己管理学習能力についての学習用意性の程度に応じて、三つの役割のうちのいずれか一つ、または二つとか三つの役割を、適時に適当な学習局面において使い分けて活用していくことが期待されているのである。

(二)成人学習者の自己管理学習能力は①技能、②学習方法または学習過程、③態度という三段階の発達過程としてとらえることができるのである。すべての成人はこの三つの段階の能力に到達することができるということが、自己管理学習能力の育成にあたる場合の教育信念である。それゆえ成人教育者が自己管理学習能力を育成するにあたっては、成人学習者の発達段階に適応していくことが必要である。例えば成人学習者が技能段階に到達している場合にのみ、成人教育者は相互作用段階の発達を促進していくことができるのである。

(三)自己管理学習能力の育成方法の範型として、成人学習者側に技能、過程、哲学という三つの能力と、それに対応する変容形態として行動、相互作用、価値という三つの能力と、また成人教育者側に指導者、協力者、同好者という三つの役割と、それに対応する教育過程として指示、助言、示範というものがあることをふまえて、



成人学習者を横軸に、成人教育者を縦軸に配置すると、自己管理学習能力についての九種類の育成方法の組み合わせが成立することが示されたのである。(平成二年九月二〇日稿)

#### 参考文献

- (1) Ernest M. Schuttenberg & Sandra J. Tracy, The role of the adult educator in fostering self-directed learning, *Lifelong Learning*, February/March, 1987, pp. 4-6.
- (2) A. J. Cropley & R. H. Dave, Lifelong education and the training of teachers, 1978.
- (3) Ernest M. Schuttenberg, "Teaching School Administration at Cleveland State University" in "Malcolm S. Knowles & Associates, *Andragogy in Action*, 1985."
- (4) 吉野有隣・岡本包治編者『社会教育指導者入門』日常出版、昭和五十四年
- (5) 岡本包治編者『社会教育職員必携』ぎょうせい、昭和五十五年
- (6) 山本恒夫「社会教育主事の資質・能力」(全日本社会教育連合会『社会教育』昭和六十二年四月号)
- (7) 佐々木正治「生涯教育の指導者の養成と研修」(広島県社会教育学会編『生涯教育への転換』所収)、ぎょうせい、昭和六十二年
- (8) 安原昇「施設・団体と指導者」(新堀通也編『社会教育学』所収)、有信堂、一九八一年
- (9) 拙稿「教育専門職についての一考察」(『佛教大学研究紀要六九号』所収) 昭和六〇年
- (10) 拙稿「学習指導者の種類と役割」(池田秀男編『社会教育学』所収、福村出版、一九九〇年、七八—九四頁)

【備考】文中の( ) 内の数字は、文献番号と文献の引用頁数を示す。